

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700426		
法人名	医療法人社団 眞友会		
事業所名	グループホーム「けやき」		
所在地	宮城県黒川郡大和町吉田字新要害10番地		
自己評価作成日	平成30年 8月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成30年10月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は職員の法人内異動があり、新しい顔ぶれでの職員配置となりました。ご入居者へなるべく影響がでないように、日常生活の中での細やかな気配りと些細な心理的変化にも注意しながら、常にご入居者と一緒ができることを意識した関わりを大切にしております。ご入居者の想いに寄り添うことで、本人の「やりたいこと」「できること」を継続して実践できる環境を整えられるように、事業所の方針を職員全員で作り上げて、ご入居者との関係を密に構築するよう努めています。医療面においては、併設している診療所・介護老人保健施設との連携を図ることで、必要な医療が受けられます。また、法人には研修などを企画する部署があり自己研鑽に励みやすい環境となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと隣接する同法人の老健と診療所の間には東屋があり、散歩の際の休憩地となっている。近年氾濫した吉田川と隣接し、運営推進会議ではその話題が多い。社員教育、事務管理等の面で医療法人清山と協力体制がある。ホームの運営理念に「明るく」「家庭的」「安らぎ」等を掲げ、実践に繋げている。職員は「認知症の方との関わりの基本であるゆったり寄り添うことができる」と話し、アピールポイントとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「けやき」)「ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取りとまとめて理念・運営方針を作成している。実践に繋げるために、それぞれを玄関・食堂に掲示し周知を図るとともに、折に触れて話し合いを行っている。	職員が意見を出し合い、今年度の目標を「ともに」と決めた。入居者の想いに寄り添い、笑顔と思いやりを絶やさず共に歩んでいくとの思いを込めた。申し送りやミーティングの折りに振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに可能な限り参加したり、食材を地域のスーパーに行ったりしている。町内会への参加はしていないが、運営推進会議や畑仕事・散歩を通じて地域の方と交流を図っている。	区長は広報を持参し、行事への参加を伝える等地域との橋渡しとなっている。地域の清掃活動は時間をずらし入居者と職員が参加している。散歩中に近隣の方から根付きの花を頂き成長を楽しみに育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の介護老人保健施設と合同で介護教室を開催していたが、今年度が都合が合わず、まだ開催できていない。下半期の予定に組み込みたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の様子をスライドショーにまとめて紹介することで、より理解いただけるように取り組んでいる。また、運営推進会議の場で、外部評価の結果報告と次期課題についての情報交換を行っている。	年6回開催し、町職員、地域代表ほか、毎回出席している。県から吉田川工事の進捗状況報告があることもある。離設時対応や水害避難、夏祭り、敬老会時のボランティアの話が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での交流が主であるが、介護保険申請の際などは書類を郵送せず保険福祉課に出向き、顔の見える関係性の構築に努めている。	町の介護保険制度改定研修等には、法人から参加している。県から通達された今年度治水工事予定、入居待機者情報など、推進会議後や出向いたときに町担当職員と話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことにより生じる様々な弊害を理解し、拘束をしないための代替案を考えながら実践している。玄関の鍵は日中は施錠せず、夜間のみ防犯の観点から施錠している。今年度は委員会の発足と活動も実施している。	転倒予防のためのベッド柵の取り付け等について、職員間で話し合い意識の向上に繋がっている。リスクマネジメント研修も行っている。運営推進会議に参加する人権擁護委員から意見を聞くこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の研修を受け、職員にどのようなことが虐待にあたるかや虐待防止に対する考え方を伝えている。また、年1回は併設の介護施設と合同に「不適切ケア」についての研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、法人内の研修に参加した職員が伝達講習を行うかたちで周知している。日常生活においては、ご本人の意志を尊重し、できる限り本人に決めていただけるよう権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間を取り、詳細について理解しやすいように説明することを心掛けている。また、ご本人のや家族の入居前の不安をできるだけ取り除けるようご説明し納得の上で入居いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者に寄り添う関わりの中から、ご本人の想いが表現できる機会を設けている。ご家族については状態の変化を逐一報告し、面会時には状態の報告をご意向の確認を積極的に行っている。	理念をもとに常に対話する事を心がけ、静かに1対1で聞いている。以前人形を作っていた事を聞いて、家族に人形を持参して貰い、入居者はその髪を編んでまた会えたと笑顔を見せ、家族も喜んだ例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員との面談や月1回のスタッフミーティングを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。法人としても、仕事と職場のアンケートを年2回実施し意見を反映している。	職員意見で自立支援のため手すりを付けたり、日常業務チェックリストを作成しミスを防いだ。法人はストレス度判定等の調査を行うなど、職員の働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内にはナラティブRBA「理念に通じる現場の物語」という取り組みがあり、事業所を表彰するなど働きがいかたちとして認められやすい環境となっている。また、労働条件の変更時には都度丁寧に説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の育成プロジェクトに添って実践しているほか、年2回の目標管理(面談と評価)を行っている。また、可能な限り法人外の研修を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との合同研修のほか、地域医療情報交換会への参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、安心してサービスを利用できるように、密な話し合いの時間に重点をおいている。また、入居後は環境の変化から重要な時期と考えており、関わりを多く持ち信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後の相互理解に繋げるため、重要な時期であると考えている。特に入居直後は生活の様子を電話でお伝えするなど密に情報共有を図り、できる限り不安が解消されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの相談時に、それぞれの意向の確認を行い必要とされているサービスについて十分検討している。他のサービスの説明をすると同時に関係各所との連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が得意なことと、苦手なことを見極めながら、必要以上に介入しないように努めている。これまでの生活が継続できるよう環境を整え、一緒に行うことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月けやき新聞を発行しており、日々の様子をお知らせしたり、行事の際にはお誘いし積極的に参加を促している。また、外出や通院の際にも協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用したり、外出がてらに自宅に立ち寄ったりと関係性の継続に努めている。また、馴染みの人や場所についての話を意識的にすることで馴染みの感覚が途切れないように関わっている。	入居時のアセスメントから馴染みの関係性を引き出し、家族に了解を得て会ってもらい元気を取り戻した。面会時に声掛けする等、その後に繋がるよう関係支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係性を尊重しながらも、必要時には職員が間に入るなどして、良好な関係性が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したとしても「縁」は続いていくものと考えている。お看取りさせていただいた方についてもメモリアルコーナーを設置し、その方への想いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考え、日課は設けずご本人の生活ペースを大切にしている。自ら意向を言葉にして表現することが難しい方については、家族から情報をいただいたり関わりの中から見出すよう努めている。	日常生活の会話で把握している。昼食は概ね2時間を取り、個々のペースに合わせた食事をしている。漬物が得意だった方に漬物を漬けて貰うなど、役割があると表情が生き生きしてくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らしについては、ご家族にバックグランド用紙を記入していただいている。また、関わりの中から導き出せるように努め、内容についても把握し共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察に重要性を理解し、些細な変化にも気付けるよう関わりを大切にしている。日常の中で気付き、得た情報は申し送りノートを活用し職員間の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思を尊重しながら、ご家族の意向をお聞きし、様々な視点からニーズに沿った対応ができる体制を整えている。年2回ご家族を招きカンファレンスを実施し、意向の確認と同意を得ている。	毎月の評価は全職員が参加し、ケアマネがまとめて介護計画書を作成している。家族の要望で、居室にアロマを置くことを提案された。医師から転倒防止のアドバイスがあり、ベッドの下にマットを敷くプランを入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉や表現などそのまま記録することで、ありのままの生活がわかるように努めている。情報の共有を行い、介護計画につながるように配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が見られる際は、併設の介護老人保健施設の看護師や診療所の看護師の協力をいただけるなど、可能な限りの医療的処置が行える条件下である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人には、大和町にてこれまでと変わらない暮らしが送れるよう、地域資源の情報に努めている。また、今後の活動範囲の拡大に繋げていけるよう情報の提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の医師がかかりつけ医となっており、連携が図りやすい環境である。必要時には、専門医を受診することで適切な医療が受けられるようにしている。	入所時受診医を選択してもらいが全員隣接のきぼうの杜診療所である。2週間に1度の往診と24時間オンコールの体制があり家族は信頼している。専門的受診は家族か職員が同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護老人保健施設の看護師や、診療所の看護師と連携を図っている。介護職員は状態の変化を報告し医学的な視点での助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は入院ケースはなかったが、医療的なニーズが高くなってきている状態である。近隣の病院との連携に努めており、今後も継続した関係づくりに努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針について説明し了承を得ている。実際に終末期を迎えられる際には、改めて関わり方について話し合いの場を設け、最後までその人らしく過ごしていただこう配慮している。	入居時に看取りに関する指針を説明し、心身の状況に著しい変化が起こった場合に、再度説明し同意を得ている。医師、看護師、介護職員で看取りチームをつくる。職員は定期的に医師による看取り研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の介護老人保健施設と合同で、定期的に研修会を行っている。また、定期的に職員間での緊急時の対応を再確認し、日頃から看護師や経験のある職員より対応について確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。非常食や備蓄品の準備を行い災害時に備えている。地域の方とは、運営推進会議において議題に挙げ、最新の情報交換を行ったり協力体制を築いている。	防災設備点検は業者立ち会いで法人合同で行う。3日分の備蓄を増やす計画である。消防署より訓練時に入居者の不穩について、車いす等使用の助言があった。隣家の方が駆けつける体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重すべき目上の方であるという認識のもと、生活歴や性格を考慮し、お一人お一人への対応を心掛けている。排泄・入浴の際についても、さりげなく促すことでプライバシーに配慮している。	法人内でプライバシー研修がある。居室入り口の表札は、同意を得て掲げている。面会記録は家族と面会者に配慮し、綴りから1枚ごとの用紙に切り替えた。希望者は入浴、排泄は同性介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意志表示しやすい環境を作れるよう配慮している。言葉に表現できない方に対しては、表情などから意向をくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考えて日課は設けず、その方の生活ペースを保つよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や交換時に一緒に衣服を選び、その人らしい身だしなみができるよう配慮している。また、一緒に衣服を買いに行ったり、馴染みの美容室に向くなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を作成したり、好みを聴取している。準備についても、食材を切ったり味付けをしていただくなど、ご本人の能力に応じて日常生活に即した家事の取り組みに配慮し食事そのものを楽しむ支援をしている。	献立は好みを聞いて職員が作る。法人の管理栄養士にカロリーや偏りのアドバイスを貰っている。収穫した野菜で作る茄子炒りに茗荷が合うと入居者に聞き、茗荷を入れて作ったら美味しいと喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの身体状況や嗜好に合わせて行っている。食が細くなってきている方には、栄養補助食品の提供も行っている。また、定期的に併設の介護老人保健施設の管理栄養士に助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人で行える方についても、促しをして習慣となるようお声掛けしている。口腔内の状態に応じて、かかりつけ歯科を受診したり、定期的に訪問歯科医に依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用にて、個人の排泄パターンの把握に努めている。介助が必要な方に対しては、全てを介助するのではなく、苦手な部分のみをお手伝いするようにしている。	24時間オムツ使用は3名である。意思表示が難しい入居者は、排泄表とサインを見逃さず誘導してトイレでの排泄につなげている。座っていてズボンに足を通す等、出来ない部分を介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に牛乳やヨーグルトなどの乳製品を提供したり、午前中に適度な体操を取り入れるなど工夫している。便秘の改善が必要な方は、注意して観察し内服薬での対応も併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴方法や時間などは、身体状態に影響のないように配慮しながら、なるべくそれぞれの習慣や希望に添えるようにしている。同性介助にも対応できるように配慮している。	これまでの習慣や好みを優先し入浴回数を決めている。清潔面から最低でも週2回以上の入浴と考えている。発熱や必要時は清拭、足浴を行っている。重度者用にリフト浴導入を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間は、それぞれの希望や身体状態に合わせて取りれている。就寝環境についても、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の内服薬の作用と副作用が記載されている説明書を閲覧できるようにしており、誤薬防止マニュアルを作成し周知している。内服変更時には、申し送り・申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、各個人の想いを尊重している。畑仕事や家事活動など得意とする活動が継続し行えるよう支援している。楽しみごとの支援については、できる限り希望に添えるようにし職員も一緒に楽しむことを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各個人の想いを尊重し、希望に添えるよう努めている。近所のスーパーや神社・自宅への外出しながら、近所の方と交流する機会をもてるよう支援している。	外出先は希望を聞いたり、2カ所を提示し選んで貰っている。毎年恒例の定義山が好評である。外出時の声かけを工夫したり車いすを使ったり個別支援する事で外出が増えた。近所の人と立ち話が楽しいと遠くへ外出しないと人という人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が原則であるが、特にお金を持つことへの制限はしていない。希望があれば職員が金庫でお預かりし、必要時に職員と一緒に買い物をして出納帳に記載し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはお年賀のみ継続されている方がおり、年賀状を準備したりと継続しやり取りが行えるよう支援している。電話は自由に使用できる環境となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設えについては、季節感に配慮した装飾を入者の方と一緒にしている。室温や照明については、ご入居者の身体状況に合わせ、適宜確認しながら調整している。	1日に3回換気を行う。温度計と入居者意見でエアコンやパネルヒーターで室温調整している。壁には入居者の意見で季節の飾りや、入居者の作品を飾っている。畳の共用スペースには、寄贈された仙台筆筒があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人が自分の居場所を作っており、その空間を大切にしている。また、関係性を築くことが苦手な方については職員が仲介し孤独に感じることはないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、ご家族に馴染みのある物があることの重要性を説明し、持ち込みに協力していただいている。また、その方の趣味に合ったお部屋となるよう飾り物に配慮し居心地のよい環境に努めている。	ベッド、洗面台等の他に掃除用具があり、入居者2名が自分で掃除している。自室の窓から自分で剪定した中庭を眺める方もいる。家族からプレゼントされた書、絵画を飾り家族と寛ぐ方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の力を活用できるよう見極め、必要に応じた個別支援に努めている。転倒リスクの高い方のお部屋には、つかまり立ちしやすいよう手すりを設置したりセンサーを活用し迅速に対応できるよう努めている。		